

8. 中国（地域別調査機関：（社）中国地方総合研究センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良くなっている	その他飲食 [サービスエリア内レストラン]（支配人）	来客数の動き	・高速道路料金引下げの効果が一段と増してきた。遠方の客が増えたことにより、地域色のある商品がよく動いている。
		テーマパーク （業務担当）	来客数の動き	・イベントの広報、花をメインにした集客施策などが奏効している。
	やや良くなっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・定額給付金や各市町村が発行するプレミアム付き商品券の影響からか、来客数が微増している。
		一般小売店[紙類]（経営者）	来客数の動き	・高速道路料金引下げの効果で客は増えているが、客単価が下がり気味なので、多少良くなったという程度である。
		一般小売店[靴]（経営者）	販売量の動き	・定額給付金の効果があるのか、気候が良くなるにしたがい来客数、売上が伸びている。
		百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・12月から毎月落ちてきていた売上が、前年同月比で93%をやや上回る程度となり、3月を底にやや上向いてきた。とはいえ、昨年末から年度末にかけて大きく落ち込んでいた売上が少し戻ってきた程度で、売上目標からは随分かけ離れた数字であることに変わりはない。
		衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・定額給付金もあるが、今まで不要なものを買わなかった客が、自分のための出費をし始めている。少しずつだが、来客数、客単価とも上昇している。
		乗用車販売店（営業担当）	お客様の様子	・環境対応車に対する優遇税制や補助金などの政策によって、客の購入意欲が一時期よりも高まっている。車検入庫の客も、税制などを説明すると、買換えになるケースがあった。
		その他飲食[ハンバーガー]（経営者）	来客数の動き	・新店舗ができた分売上が増えたが、既存の店舗も前年の売上を上回っており、良い傾向が続いている。
		ゴルフ場（営業担当）	単価の動き	・3か月前より価格を少し上げているが、来客数は上回っている。前年同月と比べても今月は来客数が多い。
		設計事務所（経営者）	来客数の動き	・年明けの頃は、住宅も非住宅のプロジェクトも全く止まっていたが、4月前後から、住宅のプロジェクトの再開や新しい引き合いが来ている。
	住宅販売会社（経理担当）	お客様の様子	・昨秋から2月頃までは、先行き不安から住宅購入への意欲が低下し、住宅販売イベントにおいても、来場者が極端に少なかったが、4月からは購入検討者が物件を物色している。ただし、購入予算は低めに抑えている。	
	変わらない	商店街（代表者）	お客様の様子	・客の会話から、不景気でこれからどうなるかわからないので、意図して消費を少し抑えていることがつかえる。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・定額給付金と高速道路料金引下げで、気持ちがかなりほっとしているような感じを受ける。来店した客が、この連休に久しぶりにドライブしようという話をしている。
		一般小売店[印章]（営業担当）	お客様の様子	・相変わらず団塊世代の子供たちの客が多いため、印鑑は安いものを中心に需要があるが、会社用の注文が少ない。また、一般客相手の駅支店の売上は非常に厳しい。
		一般小売店[酒類]（営業担当）	販売量の動き	・月の前半は定額給付金が給付されたためか、意外に売上は良かったが、連休に近づくにしたがって、徐々に財布のひもが締まってきた。トータルでは以前とそれほど変わらない。
		百貨店（営業担当）	お客様の様子	・広告媒体を使用して来店・買上促進を図るが、以前と比較すると客の反応が鈍く、販売量や販売高が伸びない。
		百貨店（購買担当）	お客様の様子	・中旬までは暖かく夏物が動き始めていたが、以降急に冷え込んだために売れなくなり、紳士服・婦人服・子供服とも、厳しい状況だった。また今まで良かった食料品もかなり厳しく、今月実施している物産展はかつてなかったほど低調である。高速道路料金引下げで、客が郊外に出かけることが影響しているようだ。

百貨店（販売担当）	お客様の様子	・客の買い控えや低価格志向が続いており、厳しい状態が続いている。催事をすれば来客はあるが、シャワー効果はほとんどない。
百貨店（売場担当）	販売量の動き	・催事の来客数も少なく、貴金属など高額商品の買い控えが目立つ。
スーパー（店長）	お客様の様子	・価格を下げてチラシ等で広告を行った結果、販売量は増えたが、当然単価が下がって利益が上がらない。客の買い方はシビアで、米の特売を行った時には、販売量が普段の3～4割ほど増加した。
スーパー（店長）	お客様の様子	・来客数は前年比の90%で推移している。ただしこれは購入した客の数であり、購入までには至らない客も含めれば、やや回復の兆しが見える。
スーパー（経理担当）	お客様の様子	・商工会議所発行のプレミアム付き商品券の販売状況は良かったが、売上は横ばいである。
スーパー（経営企画）	単価の動き	・4月21日現在の既存店1品平均単価の前年比は96.38%、平均客単価の前年比は97.18%で、この傾向は変わらない。
スーパー（販売担当）	お客様の様子	・相変わらず客は必要なものを少量ずつ買う傾向にある。
コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・2～3か月前から始まった道路工事の影響で、付近の交通量が増えたことから、売上が7～8%増えている。
衣料品専門店（地域ブロック長）	販売量の動き	・4月中旬に気温が上がった時にはある程度売れたが、それから販促関係の商品も売れなくなった。
家電量販店（店長）	単価の動き	・電化製品が壊れても修理して使用する客が増えてきた。客単価が極端に低下してきている。
家電量販店（店員）	販売量の動き	・客単価は落ちているが、前年度の売上は確保できている。
乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・3月の決算月が終わって、更に売上は減少して、前年比で60～70%である。連休に入ればそう大きな動きは見込めないため、これで今月は終わりそうである。
乗用車販売店（統括）	販売量の動き	・4月の販売台数は前年比73.6%と依然厳しい状況である。
乗用車販売店（店長）	販売量の動き	・台数では、前年実績に比べ、極端な落ち込みがないものの、内容で見れば、通常以上の値引き等で対応しなければならず、厳しい状態が続いている。
乗用車販売店（サービス担当）	単価の動き	・販売台数は計画をオーバーすることができたが、値段の安いものばかりで、利益が上がらない。客の財布のひもがかなり固い。
自動車備品販売店（経営者）	来客数の動き	・ETC等の一時的な需要を除けば、例年と比較しても春先のタイヤの履き替えも低調に推移し、来客数も伸びておらず、特に土日に落ちている。
その他専門店〔布地〕（経営者）	来客数の動き	・プレミアム付き商品券のおかげか、しばらく来店がなかった顧客が数十人来店した。少しずつではあるが、客の動きが良くなってきた。
一般レストラン（店長）	来客数の動き	・客の動きは依然緩やかである。3月などの歓送迎会の時期は多少活発な動きが見えたが、4月に入り一気に減退した。客は使いどころを割り切っているようだ。
都市型ホテル（従業員）	販売量の動き	・レストランは、高単価店舗は厳しかったものの、全体では前年より好調であった。
都市型ホテル（総務担当）	販売量の動き	・花の観光シーズンであり、外国人の国内旅行、企業の新入社員研修があり、当初の計画をクリアできた。
通信会社（企画担当）	販売量の動き	・この2、3か月、当社商品の販売量に、不景気による影響はほとんど見られない。また商品勧誘の際、今後景気が悪くなるからという断り文句は、特に目立っていない。
通信会社（総務担当）	販売量の動き	・消費者心理の影響もあってか、販売量が一方向に増加しない。
テーマパーク（広報担当）	来客数の動き	・高速道路料金引下げで土日は観光客が伸びているが、逆に平日が減っており、来客数は全体的には横ばいか、それ以下の数字となっている。
設計事務所（経営者）	来客数の動き	・住宅取得には国から優遇措置もなされているが、思ったほど工事が出てこない。
住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・来場者数は、あまり落ち込みもなく、多少客の反応も出てきたが、契約件数や売上金額には反映してきていない。低迷横ばい状況が続いている。

やや悪くなっている

商店街（代表者）	それ以外	・来客数、売上、単価、客の様子等、どれを取っても悪くなっている。
一般小売店〔酒店〕（経営者）	お客様の様子	・当店の取引飲食店の現状は、1軒を除き、ほとんどの店で売上マイナスとなっている。
一般小売店〔茶〕（経営者）	販売量の動き	・新茶の時期に入ったが、新茶が全く動かない。十八夜新茶の予約も去年に比べて激減している。
百貨店（営業担当）	来客数の動き	・4月下旬に競合商業施設がオープンしたり、増床したりした影響もあって、来客数・売上が前年に比べ大幅マイナスとなった。
百貨店（営業担当）	単価の動き	・取引先からの派遣や販売員の数が減少し、また退店希望が以前より増えてきている。
百貨店（販売促進担当）	お客様の様子	・定額給付金と連動してプレミアム付き商品券が発売され、当日完売したため、売上の増加を期待したが、食料品など日常の消費に使われ、当初期待したような効果はほとんどなかった。
百貨店（売場担当）	来客数の動き	・予想はできていたが、景気の後退に高速道路料金引下げが追い打ちをかけ、売上の比較的大きい週末を中心に来客数がかなり減少している。観光地を持たない中規模の地方駅前、週末の客の流出に歯止めが掛からない。
百貨店（電算担当）	販売量の動き	・来客数、売上とも前年比10%マイナスとなった。欲しい物が無いのか、買物を我慢しているのか、客に消費意欲が見受けられない。消費刺激のためのプレミアム付き商品券が発行されたが、消費は回復していない。
スーパー（店長）	販売量の動き	・ここ数年、販売点数が前年を下回ることはなかったが、前月・当月と前年比98%となった。また客単価も97%となった。
スーパー（店長）	単価の動き	・1品単価が下がっているため客単価が低下した。買上点数は、3か月前と変わっていない。
コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・全体の売上は前年比102%程度だが、既存店ベースでは97%程度である。訳ありなどの価格の安いものは出ているが、定番商品の売行きが悪く、客は必要なものしか買って行かない。売上はあっても利益が出ない状態である。
コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・前年比で売上が1.5%下がっている。内容を見ると、来客数は2.0%上がっているが、客単価が3.0%と大きく下がっている。
コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・主力商品である弁当類の1品単価が15～20%低下している。また新商品のカップめんも、高単価のものは売れず、低単価のものが良く売れている。
衣料品専門店（地域ブロック長）	単価の動き	・前年に比べ客単価が下がっている。来客数を確保するため、単価を下げてセールを行ったが、その減少分をカバーできていない。
衣料品専門店（販売促進担当）	販売量の動き	・今月は暖かくなったことから来客数は多かったが、欲しいけれども我慢しているという人や、ゴールデンウィークに向けて買い控える人が目立ち、全体的に客単価が低かった。
家電量販店（予算担当）	販売量の動き	・景気対策としてエコポイント制度の実施が報道されているが、具体的なことがはっきりしていないため、消費が止まっている。
その他小売（営業担当）	販売量の動き	・土日・祝日の販売量が減少傾向にある
高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・ここ数か月特に変わりはなく、来客数も減少傾向にある。
一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・来客数が少しずつ減少している。
スナック（経営者）	お客様の様子	・客がビールではなく、安い焼酎の水割りなどをよく頼み、出費を1円でも抑えたいという傾向がはっきりと見える。
観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・高速道路料金引下げにより、個人客は若干増えているが、旅行会社経由の団体旅行が低迷している。
観光型ホテル（経理総務担当）	販売量の動き	・春休み以降、高速道路料金引下げがスタートして順調かと思われた宿泊客の伸びが、ここに来て減速気味である。期待していたゴールデンウィークも前半は空室が目立った。

	都市型ホテル (経営者)	来客数の動き	・客室部門では、出張の回数やホテル代を減らそうという動きのため、ビジネスの客層が落ち込んでいる。レストランにおいても、個人客の利用が減少傾向で、客は外食をひかえているか、価格の安いところへ流れている。
	都市型ホテル (スタッフ)	単価の動き	・宿泊の客数は昨年と比べ微増しているが、客単価が下がっている。宴会の料金も居酒屋並の料金になっている。
	タクシー運転手	来客数の動き	・客の反応などからなかなか良い景気の話が聞こえてこず、売上も前年比で10%ほど下回っている。
	タクシー運転手	お客様の様子	・選挙があれば例年人の動きが悪くなるが、市長選、市議選があったこともあって運行回数、客単価共に悪く、前年比10%減の売上で推移した。夜の動きについては歓送迎会が4月にずれ込んだりしたが、3月並か、もしくはそれ以上に悪い状態であった。
	タクシー運転手	販売量の動き	・乗車回数が減っていると同時に、売上も減少している。
	タクシー運転手	販売量の動き	・売上が前年比で10%以上下落している。ただし4月に入り、客の表情や様子が随分明るくなってきた。
	通信会社(総務 担当)	お客様の様子	・例年、この時期は、転入に伴う新規契約等により獲得件数が伸びる傾向にあるが、今年は依然として低迷している。
	通信会社(通信 事業担当)	販売量の動き	・通常であれば新規加入が多い時期だが、実際の加入数はもちろん、問い合わせなどの件数も非常に少ない。
	テーマパーク (管理担当)	来客数の動き	・来客数が減少している。
	美容室(経営 者)	来客数の動き	・色々とキャンペーンを打ったり、ダイレクトメールを出したりしているが、現状維持が精一杯といった有様である。
	設計事務所(経 営者)	競争相手の様子	・同業者の廃業・倒産があり、全体の受注の減少傾向が止まらない。
悪く なっている	商店街(代表 者)	販売量の動き	・3月半ばから売上が落ちていて、落ちたまま今月は推移した。客は当座必要なものしか買っていない、それ以外は買うことに非常に慎重になっている。また客単価の下落は目を覆うばかりである。
	商店街(代表 者)	販売量の動き	・ここに来てスーパー等が食料品の値下げを始め、これにより客はデフレ傾向を更に敏感に察知し、今までに拍車を掛けてものを買わなくなっている。デフレ・少子化・オーバーストアの三重苦に喘いでいるが、デフレの傾向が更に強く、売上が大きく落ち込んでおり、いよいよ苦戦を強いられている。
	商店街(代表 者)	販売量の動き	・新年度、新学期用のバッグの売行きが、例年になく悪かった。
	百貨店(売場担 当)	販売量の動き	・2週目から季節対応の服飾雑貨の売上が前年比105%と伸ばすものの、婦人衣料品が前年比80%前半と大苦戦し、今月の売上も前年比85%となった。期待したゴールデンウィーク前の需要は、減少した前年を更に割り込んだ。
	スーパー(店 長)	お客様の様子	・客単価、買上点数とも大きく下がっている。客の財布のひもは非常に固くなっている。
	スーパー(店 長)	競争相手の様子	・大手大型ショッピングセンターがゴールデンウィーク前にオープンし それに合わせて競合他社も販促活動を強化したため、客の流れが分散している。
	スーパー(総務 担当)	単価の動き	・客単価が2.5%近く落ちている、128円でそこそこで動いていた物が今では98円でやっと動く。今までのような買物ができなくなっている様子が顕著になった。
	スーパー(財務 担当)	単価の動き	・雇用環境の悪化による収入減により、客単価が97.3%に下がっている。また来客数も既存店で94.5%となっている。
	コンビニ(エリ ア担当)	単価の動き	・客単価の落ち込みが大きい。ただし来客数はタスポ効果が継続しており、前年より多い。
	衣料品専門店 (経営者)	お客様の様子	・プレミアム付き商品券の利用が全くない、ひどい状態になっている。
	家電量販店(店 長)	販売量の動き	・今国会でエコポイントなどの景気対策が審議されているが、この対策待ちで購買意欲にストップが掛かっている。早く実施して貰いたい。

		住関連専門店 (広告企画担当)	来客数の動き	・来客数がだんだん少なくなっている。
		その他専門店 [時計](経営者)	単価の動き	・高額品が全く売れない月であった。不必要なものは買わないという消費動向が顕著だった。
		一般レストラン (店長)	来客数の動き	・高速道路料金引下げが始まってから、土日・祝日の来客数が大幅に減少しており、更なる痛手となっている。
		旅行代理店(営業担当)	お客様の様子	・定額給付金の給付や高速道路料金引下げが実施されたにもかかわらず、客の動向が日帰りのこじんまりしたものとなり、宿泊・旅行に消費が向いていない。
		美容室(経営者)	競争相手の様子	・月1回の同業者の会合で、どこもこんな悪いことはかつてなかったと言っている。
		美容室(経営者)	来客数の動き	・外出や接待などの回数が減ったために、客が髪を切るペースが少し落ちている。
企業 動向 関連	良くなっている			
	やや良くなっている	食料品製造業 (総務担当)	受注量や販売量の動き	・流通網を確保しながら販売を進める方法により、売上が好調に推移している
	変わらない	食料品製造業 (業務担当)	受注量や販売量の動き	・販売している商品が日常の食料品ということもあり、販売量の減少は小さかった。
		化学工業(総務担当)	受注量や販売量の動き	・依然として工場の稼働率は低迷しており、回復の見通しが立たない。
		鉄鋼業(総務担当)	受注量や販売量の動き	・エレクトロニクス材料については在庫調整が終わり、一部には受注回復の兆しが見られるものの、機械工作・自動車関係の部品受注は未だに低調であり、売上ペースでは厳しい状況が続いている。
		電気機械器具製造業(総務担当)	受注量や販売量の動き	・自動車関連及び携帯関連は、依然として受注回復が遅れており、先行き不透明感はいまだ払拭されていない状況が続いている。
		輸送用機械器具製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・主要顧客である自動車産業の景気が、ずっと悪い状態が続いている。
		輸送業(運送担当)	取引先の様子	・相変わらず運送業者の発送量が横ばいのみである。
		通信業(営業企画担当)	受注価格や販売価格の動き	・先月と変わらず、既存の取引先からの値下げ依頼が続いている。また新規案件についても、設備投資の抑制により、提案しても保留となる状況が続いている。
		通信業(部門長)	受注量や販売量の動き	・主力商品の光回線の受注量が低迷し、廃止回線も少なくない。業界全体で言うと、流通系企業については通信設備へ支出することに期待できるが、自動車系企業はコストパフォーマンスがあるにもかかわらず、依然として出費に強い抵抗がある。
		金融業(業界情報担当)	取引先の様子	・主要受注先では、中国向けが前年比で増加に転じ、欧州向けも在庫調整が進み、やや回復しているが、主力の北米向けの輸出低迷が継続しており、全体で工場の操業度は前年比6割程度となっている。
		コピーサービス業(管理担当)	取引先の様子	・とにかく仕事の引き合いがない。
	やや悪くなっている	農林水産業(従業者)	それ以外	・今月と3か月前を比較すると、底引き船、大中型巻き網船、定置網が減少したため、水揚げ数量で490tの減少、水揚げ金額は2億9,000万円の減少である。
		金属製品製造業 (総務担当)	受注量や販売量の動き	・受注量は月を重ねる毎に減少幅が大きくなっており、4月は前年比の30%にまで落ち込んでいる。そのため、ゴールデンウィークには一時帰休を2日実施する。
		一般機械器具製造業(経営企画担当)	受注量や販売量の動き	・海外の自社製品の売上が、前年同時期と比較すると約3割減少した。業況の回復は、今のところ見られない。
	輸送用機械器具製造業(経理担当)	取引先の様子	・景気の動向が読めず、海外の状況によって大きく変わるため、取引先からの長期予定が出てこない状態である。	
	建設業(経営者)	受注量や販売量の動き	・景気後退が鮮明になり、民間設備については、工事の延期、取り止めが増加している。今後の動向は、財政支出による公共事業の行方に掛かっている。	
	輸送業(統括)	取引先の様子	・顧客には、提示する料金の安価な競争相手にすぐに乗り換える傾向が見受けられる。	

	金融業（営業担当）	取引先の様子	・主要企業関連の運送業など、業務量が半減するなど、企業に仕事がない状態にある。当面の運転資金はセーフティネットでまかなえても、仕事がないため返済する財源が見出せないという企業が大変増えている。	
	会計事務所（職員）	取引先の様子	・製造業の業績は、4月に入って一気に悪化してきている。特に、自動車製造関連の業界にその傾向が顕著に見られる。	
悪く なっている	木材木製品製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・新設住宅の着工件数が減少している。	
	窯業・土石製品製造業（総務経理担当）	受注量や販売量の動き	・正常操業水準を下回る受注状態である。このため、部署により異なるが、3日から7日の休業を実施した。	
	輸送用機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・受注価格が引き下げられている。	
	その他製造業 [スポーツ用品]（総務担当）	受注量や販売量の動き	・今のところ受注は前年並みであるが、今後は、売れ筋でない商品は、生産途中であっても打ち切るとの本社からの通達があり、実際そういう事象が数件発生している。今のところ大きな問題はないが、これが頻繁になるようだと当社にとっても非常に大きな問題となり、損益面にも影響が出てくる。	
雇用 関連	-	-	-	
	良くなっている やや良くなっている	人材派遣会社（担当者）	周辺企業の様子	・企業を回っていると、3月後半から少し持ち直しの傾向を感じる企業が少しあった。ただしここに来て停滞を感じている企業も多い。
		民間職業紹介機関（職員）	求人数の動き	・地場自動車関連会社にも少しずつではあるが、採用意欲が出てきた。これまでは採用抑制一辺倒であったが、将来を見越し必要最低限のコア人材であれば採用できる、或いは未経験者でもいいから、将来を見据え次世代人材を発掘しておきたい、などここ数か月耳にすることがなかった前向きな発言が聞こえ始めた。
	変わらない	人材派遣会社（営業担当）	採用者数の動き	・4月に派遣開始となったスタッフの数が、1～3月平均開始数より約20%上昇した。ただし、前年比では約60%であり、また開始先には年度始めの官公庁からの落札案件が多く含まれているため、今後の需要に関しては全く楽観視できない。逆に契約終了となったスタッフは前年同月や3月より少なく、下げ止まり感がある。
		求人情報誌製作会社（支店長）	採用者数の動き	・企業側の新卒大学生への選考姿勢に変化が見られる。
		職業安定所（雇用開発担当）	求職者数の動き	・新規求職者数は前年同月比で約3割増となっている。企業は求人を出せば苦労しなくても複数の応募者が集まるため、採用選考基準は昨年の同時期と比較して格段と厳しくなっている。このため1人当たりの紹介数は、従来と比較して大幅に増加している。
		学校[短期大学]（就職担当）	求人数の動き	・昨年に比べ求職者についての問い合わせ等が非常に少ない。また、求人についても派遣等が多くなった。
	やや悪く なっている	求人情報誌製作会社（担当者）	採用者数の動き	・企業の新卒向け合同セミナーへの参加が、なかなか決まらない。
		新聞社[求人広告]（担当者）	雇用形態の様子	・来年採用するかどうか、採用人数をどうするかをまだ決めかねている企業がある。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・例年4月は求人数の多い月となっているが、今年は求人窓口に来所する事業所数が減少し、求人数も前年比で8割程度と減少している。また、製造業、派遣業、建設業から雇用調整助成金等の相談・申請件数も右肩上がりに増加しており、小規模事業所からの申請も増加している。
職業安定所（職員）		求人数の動き	・前年比で月間有効求職者数は1割以上増えているのに、月間有効求人数は3割以上の減少が続いている。	
悪く なっている	人材派遣会社（支社長）	求人数の動き	・派遣人員数は、前年比で50%以下である。ただし、4月に入って若干、増加傾向にある。	
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・世界的な景気悪化に伴う大幅かつ急激な受注減により、製造業で求人が特に大きく減少している。企業業績の不振による雇用不安や所得減少の懸念などから、消費者の買い控え傾向が一層強まったために、卸売・小売業についても求人数が減少してきている。	

	民間職業紹介機関（職員）	周辺企業の様子	・地場大手企業で、半導体関連部門をも持つ企業では、20歳代から30歳代の若年層をもリストアップの対象にしている。
--	--------------	---------	--